

## 6. クマゲラの生息調査とその生態観察 (第2報)

弘前営林署 ○ 内海和徳  
上川原一夫  
相馬敏雄

### 1. はじめに

昨年度(平成2年度)当署管内において、国の天然記念物である「クマゲラ」の生息が確認され、伐採凍結や林道工事の中止等を余儀なくされました。

このことは、本州におけるクマゲラの生息実態や保護対策も明らかでないことから、各方面からの保護要請が提起され、問題視されているところであります。

特に、平成3年度クマゲラの繁殖が確認されているのは、本州では当署管内だけであることから、昨年度のデータを基にその生息調査と生態観察を行い、今後の森林施業の一助とするため昨年度につづき第2報として紹介する。

### 2. 取り組み

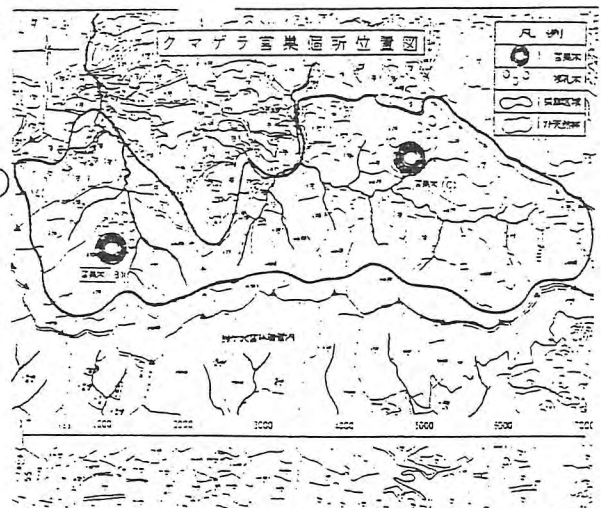
- (1) 昨年予測した2地点で実際に繁殖行動が行われるかどうかの確認
- (2) クマゲラの行動範囲の推定
- (3) クマゲラに関する一般的データの収集

### 3. 調査観察の結果

- (1) 昨年営巣を予測した地点における繁殖行動の確認について

図-1

今までのデータを基にクマゲラの生活圏をしぼり込み、平成2年度の秋、収穫を予定している個所において、生息確認調査を行ったところ、B地点及びC地点(図-1)でクマゲラの生活痕跡やクマゲラの鳴き声を確認した。このことから、この団地内で以前から繁殖活動が行われていた可能性が強く、翌春もこの周辺で子育てが行われるであろうと予測した。

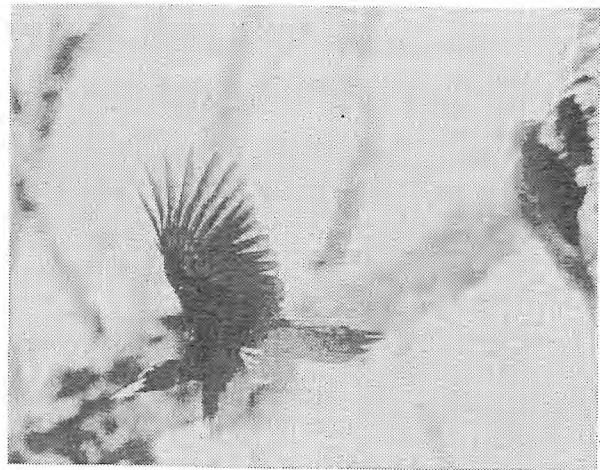


その結果、予測した2地点とも繁殖活動が行われ、オス・メス交替で抱卵しているのを確認した。(写-1)

このことは、当署のこれまでのデータが立証されたことであり、クマゲラの住む環境がある程度しぼり込めたものと思う。

これで今年度当署管内で計7羽のヒナが巣立ちしたことを確認した。

写-1

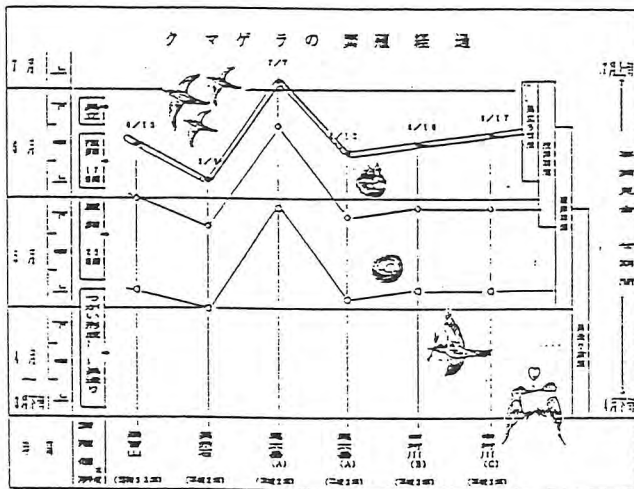


オス・メス交替で抱卵

(2) ヒナの巣立ち時期 について

巣立ちの時期について把握しておかなければならないということは、伐採計画や林道工事等の事業計画を立てる際の目安となる重要なポイントとなるからである。これは、局長通達にいう「巣造りから巣立ちまでの期間は、営巣木から半径1,000m以内は事業実行を見合わせる」ということからである。

図-2



この図表(図-2)は、今まで確認された巣立ち時期の記録であり、北海道の例を除くと本州では「秋田県森吉山=1ヶ所」「鱒ヶ沢奥赤石=1ヶ所」「当署管内=3ヶ所」計5ヶ所の確認記録しかない。

1. 昭和53年 秋田県森吉山 = 6月15日
2. 平成2年 鱒ヶ沢奥赤石 = 6月8日
3. 平成2年 当署管内 A = 7月7日
4. 平成3年 " A = 6月12日
5. 平成3年 " B = 6月16日
6. 平成3年 " C = 6月17日

6例のうち5例までが6月12日～6月17日に巣立っているが、平成2年度に巣立ちした当署管内A地点は、「7月7日」と約20日間の開きがある。これは、固体そのものによるものなのか、ペアリングの時期の違いか、また巣の彫り直しに時間を要したか等今後の課題であるが、このデータから言えることは巣立ちの時期は6月中旬から7月上旬であろうと予測することができる。

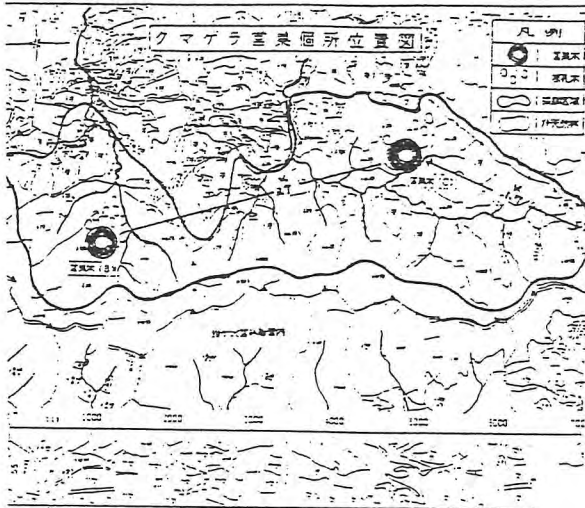
巣造りについては、当署管内で62年4月8日に、オス親が巣の彫り直しををしているところを確認している1ヶ所だけのデータであるが、事業計画の段階では、巣造り

の始まる4月上旬から巣立ちする7月上旬までは、事業の見合せを考えなければならない。

なお、事業実行は当然巣立ちを確認しなければならないことは通達どおりである。

### (3) クマゲラの行動範囲について

図-3



いままで確認されている5地点のなかで、一番巣間距離の短いBとC地点で推定してみることにした。

クマゲラに縄張り意識があるとするれば、生息圏はダブらないということから、3.7 kmの1/2である1,800 m以内といえる。

また、採餌木の食痕を調査したところ、営巣木から一番遠い位置で約1,700 mと、巣間距離の1/2に相当する1,800 mと近似した値となった。これは、その採餌木の食痕がBまたはC地点のものなのか、また、他のクマゲラのものかは判断ができなかった。

いずれにしても、生活行動域は1,800 m以内と推定できたとしても、その面積が、ただちに1,800 mを半径とした円として描かれるものではなく、クマゲラが必要とするエサの分布状況や地形等を考慮した、生活圏を考えていく必要がある。

## 3. 伐採とその生息環境の保護

クマゲラは比較的明るいところを好むことから、30%程度の伐採であれば、特に影響を与えるものではないと思われるが、局長通達により周辺500mは伐採できないことになっている。

図-4

ところが、昨年9月の台風19号により、中村川の営巣木周辺の立木が、約40%ぐらい転倒し、択伐を実行したような状態となった。これは、天然被害であり、人的に伐採したものではないが、この風倒木をイコール択伐実行と仮定し、次期クマゲラの繁殖にどのような影響を与えるのか確認したいと思っている。

このことは、今後の森林施業とクマゲラとの関わり合いを模索していく上で重要な要素である。

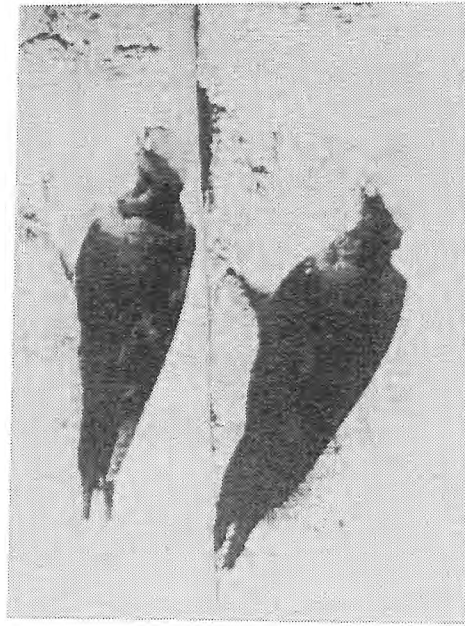
#### 4. 留意事項

「国の天然記念物・クマゲラ」という稀少性から、マスコミ等による報道が基となり、不特定多数の知るところとなって、結果的にクマゲラの生息そのものに悪影響を与えるということが最も注意を要することである。

#### ※ 参考写真 ※



給餌中オス親



左 メス ・ 右 オス



採餌木



営巣木